表５　食糧用大麦及びはだか麦の総需要量の推移

（単位：万トン）

年　　度	総需要量	対前年度比	
平成21	33	88％	
22	33	98％	
23	31	95％	
24	34	111％	
25	31	89％	28年度見通し 33万トン （過去５か年平均）
26	35	113％	
27見込み	32	92％	

２－２　国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通量

⑴　国内産食糧用大麦及びはだか麦の供給量（当年産の大麦及びはだか麦のうち、生産者から実需者に引き渡される数量）

平成28年産の国内産食糧用大麦及びはだか麦の供給量(注1)は、平成27年８月の民間流通連絡協議会において報告された平成28年産の作付予定面積（二条大麦29千ha、六条大麦17千ha、はだか麦５千ha）に、過去５か年（平成23年産から平成27年産まで）の10ａ当たりの収量のうち、最高及び最低を除いた３か年の平均値（二条大麦301kg、六条大麦281kg、はだか麦263kg）を乗じ、さらに、食糧用供給割合（二条大麦56.8％、六条大麦88.9％、はだか麦96.3％）(注2)を乗じて、11万トンと見通します（表６）。

（注１）は種前契約に基づき、生産者から実需者に引き渡される数量である。

（注２）当年産のうち、食糧用として生産者から実需者に引き渡される割合（それ以外は、ビール用、種子用、規格外等）。平成28年産については、過去５か年（平成23年産から平成27年産まで）のうち、最高及び最低を除いた３か年の平均値である。

⑵　国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通量（前年産と当年産の食糧用大麦及びはだか麦のうち、当年度内に市場に流通する量）

平成28年度の国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通量は、平成28年産の国内産食糧用大麦及びはだか麦の供給量に、年度内供給比率(注3)を乗じ、さらに、平成27年産国内産食糧用大麦及びはだか麦の在庫量を加えて、10万トンと見通します（表６）。

（注３）当年産の供給量のうち、当年度内に生産者から実需者に引き渡される数量の割合。平成27年産について、実需者から提出された平成27年産麦の購入計画から算出し、平成28年産については、過去５か年（平成23年産から平成27年産まで）のうち、最高及び最低を除いた３か年の平均値としている。

表６　国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通量の推移

（単位：万トン）

年　　産	食糧用大麦及びはだか麦の供給量 ①	うち年度内供給量 ②	年度内供給比率 ②／①	次年度繰越（在庫） ①－②
平成23	10	3	26.5％	7
24	9	3	30.1％	7
25	11	4	35.2％	7
26	10	3	31.1％	7
27見込み	10	3	31.1％	7
28見通し	11	3	30.5％	
		28年度流通量見通し		10

注：１）国内産食糧用大麦及びはだか麦については、上記の流通量10万トンのほかに生産者団体とビール会社との契約栽培により国内産ビール大麦６万トンが供給される見込みである。

２）四捨五入の関係で、計と内訳が一致しないことがある。

２－３　外国産食糧用大麦及びはだか麦の需要量

平成28年度の外国産食糧用大麦及びはだか麦の需要量は、同年度の食糧用大麦及びはだか麦の総需要量33万トンから国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通量10万トンを差し引いて22万トンと見通します（表７）。

２－４　外国産食糧用大麦及びはだか麦の輸入量（政府からの販売数量）

平成28年度の外国産食糧用大麦及びはだか麦の輸入量は、外国産食糧用大麦及びはだか麦の需要量と同量の22万トンと見通します（表７）。

なお、飼料用大麦の輸入については、別途、農林水産大臣が定める飼料需給計画に基づき行います。

表７　平成28年度の食糧用大麦及びはだか麦の需給に関する見通し

（単位：万トン）

総需要量	A	33
国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通量	B	10
外国産食糧用大麦及びはだか麦の需要量	C＝A－B	22
外国産食糧用大麦及びはだか麦の輸入量（政府からの販売数量）	D＝C	22

注：四捨五入の関係で、計と内訳が一致しないことがある。